
櫻祈の森

耀姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

櫻祈の森

【Nコード】

N5753C

【作者名】

耀姫

【あらすじ】

淡き花片に導かれ、少女は不思議な場所に迷い込む……

第一章

はらはらと闇に舞散る桜花愛しき者の死顔に淡き花片が舞落ちる
愛しき者よ、とこしえに淡き桜の森の奥、貴女とわたしの二人きり
……

粉雪が舞散る最中両手にカバンと傘を持った少女が1人人気のない
道を走っていた。

腰まである黒髪も満足に結ばずに走っているところを見るとどうや
ら少女は寝坊したようだ。

「もう～おかあさんったらなんで早く起こしてくれないのよお！」
何度起こされても起きなかった事を棚にあげ、少女は母親に文句を
口にする。

どれくらい走っていただろう。

次の角を曲がれば学校き到着するといふところで少女は信号機に捕
まってしまった。

「あ～もうこんな時にい～!!」

時間を気にしながら少女は信号機を睨みつける。

しかし、そんなことをしても信号が変わるわけもなく車の通りが無
い事幸いと少女は信号無視する事を決意した。

辺りを見回すと少女に向かって遠くから走ってくる。

あんなに遠ければ……

少女はそう考え勢い良く走りだした。

そして、信号を半ば渡った時、少女の眼にどこからともなく粉雪ま
じりに薄紅色の花びらが飛び込んできた。

「え?…どこから…?」

今の季節は粉雪が舞散る真冬である。

『……ごめ…なさ……い』

驚きのあまり足を止めた少女の耳に冷たい風に乗って誰かの声が聞こえた。

少女が振り向けばそこには1人の女人が立っていた。長い漆黒の髪に歴史の教科書に出てくる様な着物を着た美しい女の人。

「……誰？」

突然現われた女人と花びらに少女は戸惑いながらも尋ねる。

『……ごめ……んな……さい……』

再び女の人はそう呟くと悲しそうな表情を浮かべたまま音もなく姿を消した。

何が起こったか理解できず少女は茫然とその場立ち尽くす。

キキキキキィー！

立ち尽くす少女がタイヤの軋む音で我に振り返り向くと白い車が猛スピードで突進してきた。

ぶつかる！！

避ける事も出来ず、少女は眼をきつく瞑る。

その瞬間、粉雪混じりに舞っていた花びらが何かの力に操られるように少女の体を包み、そしてその姿を雪の様に消し去った。

やっと止まった車から青ざめた顔の男が降りて来ると轢いたと思い込んでいる少女の姿を探した。

しかし、その姿は無く道端には少女の持っていた傘とカバンが雨に打たれているだけであった……………。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5753c/>

櫻析の森

2011年1月15日14時36分発行